令和７年度第１回葉山町総合計画審議会連継部会議事録

日　時：令和７年 12 月 23 日（火）14：00～16：00
場　所：葉山町役場庁舎２階　２－２会議室
出席者：福安部会長、津吉委員、冨樫委員、畑野特別委員、志伯特別委員、山之口特別委員
山本政策課長、吉田課長補佐、大屋主任

１　開　会

・定刻通り開会
・会議の成立について報告
・資料の確認（次第含め計６点）

２　委員・事務局の紹介

・委員・事務局自己紹介

３　議題

⑴　会議の公開・非公開について

・「審議会、委員会等の会議の公開に関する指針」に則り、原則公開とするが、議題によっては非公開とする旨を決定。
・本日の傍聴希望の方はなし

⑵　連継の推進について

≪事務局より資料の説明≫

〇部会長（福安徳晃）

議題として幅広いものを取り扱うことになるが、まず部会としてどのような成果をあげていきたいか、整理をしたい。

〇事務局（大屋主任）

町として、町民個人もしくは中間支援組織等から意見聴取ができる仕組みを構築していきたい。期日で言うと、第１期基本計画（2025年度～2028年度）の終わりごろまでには、構築できると良いと考えている。もちろんこれより早い時期に構築できればいいが、拙速に導入したことで利用されない仕組みとなってはいけないと考えている。

○部会長（福安徳晃）

資料に記載のある「１　行政情報の可視化」「２　地域の声を聴く仕組み」「３　地域とともに創る行政サービス」というのが４年後には一定実現しているという状態を目指して、この部会で意見を出していく、ということでよろしいか。

○事務局（大屋主任）

そのとおり。

○委員（津吉彰郎）

議会は町の施策の意思決定について、どのように関わっていくのか。

○事務局（大屋主任）

議会との関わりは、予算については議会で審議の上、議決をいただいており、それ以外の施策等については常任委員会や一般質問などの機会で、ご意見をいただいており、それを町の施策へ反映させている。

○事務局（吉田課長補佐）

この部会については町の附属機関である総合計画審議会の傘下にあって、以前は審議会等にも議会議員が参加していたこともあったが、規定されているものを除いては行政府と立法府は分けて進めていくことが一般的になっている。

そういった状況を踏まえると、常任委員会や予算委員会等の機会を以て議会からはご意見をいただくことになろうと思う。

○部会長（福安徳晃）

町の大きな方向性としては、議会の議決を経て決まっていくが、その決まった枠内においては部会で審議した事項を踏まえて行政で進めていい、という理解でよいか。

○事務局（吉田課長補佐）

そのとおり。

○特別委員（志伯マキ）

福祉分野では、小地域福祉活動の発想のもとで葉山町に８つの地区協議体が設置され、堀内地区協議体では地域課題や情報共有の基盤として「堀内互近助プラットフォーム」が構築された。このプラットフォームに参加する多セクターが協働して地域活動が6年間継続できている。私はプラットフォームにコアメンバーとして関

わっているが、仕組みの構築までには３年ぐらいかかったと思う。プラットフォームには、調整役を担う中間組織のキーマンの方がいらして、その方が相当なご尽力をしていただいた。まずはそういった方が、どのような知見があり、ネットワーキングをされ、どのような課題意識を持っておられるのか、プラットフォームを構築するまでの取り組みや、引継ぎなどの様々なお話をヒアリングすることをしてみてはどうか。

○特別委員（畑野真人）

資料からだと見えない部分が、危機感の部分だ。人口が減少していき、行政の予算も少なくなっていくことが予測され、町内会加入率も改善への答えがないような状況。そういったなかで、民意を行政や地域にどうやって反映させていくかというのが課題になってくる。「共助」が空洞化していく時代のなかで、これからの答えを出したい、という話だと思う。そのためには、特定のテーマがあるものについては、そのテーマにおける中間支援組織で意見を集約して、行政へ反映させていくことになろう。それは世の中が多様になり、世代構成も変化してきている時代にあっては、ある種必然かもしれない。議会制民主主義だけでない部分が、この連継部会で重要になってくると考えている。

世論形成するためのメディアはない葉山町においては、まちづくり協会としては、テーマ型の団体が多いことから、そういった団体の意見をまとめられるフォーラムを開催し、提言できるような役割を担っていきたいと考えている。

小さい町だからこそオンラインプラットフォームが果たして必要なのかとも感じている。

○部会長（福安徳晃）

私の運営しているソフトウェアのコミュニティは、当然、普段はオンライン上でのやりとりをしている。逆説的ではあるが、だからこそオフラインが重要になってくる。顔合わせをすることで、信頼が醸成され、ソフトウェア開発のスピードが上がっていく。オンライン、オフラインの一方ではなくて、両方重要だと感じている。

○特別委員（山之口援）

町内（自治）会というのは大切な機能であり、畑野委員のおっしゃるある種の趣味（テーマ）でつながっているコミュニティも重要で、これが両方ないといけない。葉山に長く住んできた方と、葉山に憧れて移住してきた方の気持ちは、それぞれ違い、こういった意見や利害が異なるグループの意見をどうまとめていくか、というのが重要だ。そのためには、世論といった大きな話ではなく、一歩一歩進めていくためにはどうしていった方が良いか、考えていってはどうか。

大きな構想のための最初の一歩をどう踏み出していくかが大事で、今の課題を聞き、自分事としての町政に参画していくことがどういうことか、議論していきたい。

○部会長（福安徳晃）

自分がアクションをすると町がこう変わっていくという実感が今はない。実感があると変わっていく。

○特別委員（山之口援）

そういったなかで、例えば、町内会の一員としての自分、テーマ型のコミュニティの一員としての自分、部会での自分など、町民としての様々な役割があっていい。

○事務局（大屋主任）

人口減少や少子高齢化、それによる影響は、葉山だけでなくどの自治体でも課題であって、それに加えて、個人的に感じている課題としては、人口減少のスピードが想定より速い。国勢調査を先日実施したがおそらく３万人ちょうどぐらいの人口になってしまうと考えている。総合計画では2040年を目標としているが、もしかしたらそれよりも早いタイミングで、2040年問題のような状況が起きてしまうかもしれない。

○委員（冨樫俊夫）

生まれも育ちも葉山だが、昔から葉山に住んでいる人には行政に参画しようという方は、多くはいらっしゃらなかったように感じる。しかし、徐々に変わってきていると感じており、例えば学校は、学校だけで何かを完結できるという状況ではなくなってきている。コミュニティスクールは全ての学校に設置されているが、これは、地域協働体として、地域の方に学校に参画していただいて、一緒に学びを作っていく。地域の方にも教育に責任を持っていただくというものだ。こういった学校のような話を、町行政としても考えていくことになったんだと感じている。

○特別委員（山之口援）

町内会の成り立ちとしては、氏子会や氏神様を基にしている会も多いと思うが、森戸神社の例大祭を見ると、昔からの住民、移住してきた住民、老若男女が立場に関係なく良い顔をしていて、そういった色々なものを受け入れるのが葉山の良さだと思う。こういった葉山の良さを活かせる仕組みを考えていきたい。

〇部会長（福安徳晃）

広報の方法と言うのは解決しなくてはいけない課題だ。

また、人口減少の話もあったが、目指すプラットフォームというのは、町民がやりたいこと・やってほしいことをフィードバックするものかと思っていたが、フィードバックするだけではなくて、実際に町民にやってもらうためのプラットフォームという認識に変わったが、間違いないか。

〇事務局（大屋主任）

そのとおり。町民の皆様の想いを聴くことはとても重要で、現在も「町への提案」などで意見を頂戴しているが、それだけではなく、町民や地域と一緒に行政サービスを創る取組みをしていければと考えている。

〇委員（津吉彰郎）

福祉防災フェスは、令和６年度に社協と長柄・長柄下町内会の取組みとしてスタートしたが、今年度はそれに加えて長柄小学校、PTA、葉桜自治会も参画し、長柄小フェスと同時開催ですることができ、大盛況だった。

また、風早夏の夜祭も大盛況で、一度参加してもらうと積極性は増してくるものだと感じた。そのきっかけをどう作っていくかが重要なのではないか。

〇委員（冨樫俊夫）

今までは「行政がやらねば」といった感じであったが、「〇〇したい」「じゃあ一緒にやりましょう」といった風に変わっていけば、参加するきっかけも増えていくかもしれない。それが将来的には「自分たちでやってみる」まで変わっていく可能性もある。

〇特別委員（畑野真人）

データを基にしているわけではないが、地域で活動したい方というのは増えていると感じている。実際にまちづくり協会に登録していただく活動団体もここ数年は年10会員ずつほど増えている状況だ。フェスなどを含む「お祭り」に参加した人もとても増えている印象がある。何かをやりたいと機運が高まっていることを感じている。

〇部会長（福安徳晃）

コミュニティの活性化には「楽しい」という感情はとても重要で、これが継続していけるようなレビュープロセスがあると良いのかもしれない。

葉山のなかに、どのような分野のリーダーがいるのか、アイデンティファイして

いくことも重要だ。

〇事務局（吉田課長補佐）

町の課題は、どうしても縦割り行政になってしまい、他の課への情報共有ができていないことがある。先ほどの志伯委員の「堀内互近助支援プラットフォーム」や「福祉防災フェス」も自分はその担当課にいたことから経緯などを知っているが、他の課へはあまり知られていない。縦割りだからしょうがない、という状況はよくない。定期的に人事異動もあり、担当者が変わると……といったことも起きてしまう。

〇特別委員（志伯マキ）

プラットフォームが機能していると、事業者などの参加者が代替わりしても引き継がれていき機能をしている。対面とそれを補完するオンラインの両輪で、プラットフォームをきちんと機能させていくことが重要だ。

〇部会長（福安徳晃）

そういったコミュニティのリーダー達が集まり意見交換できる場が良いかもしれない。

〇委員（冨樫俊夫）

マンパワーの話題が出たが、世代交代が難しい地区もある。

〇委員（津吉彰郎）

ここ最近は70歳まで働き続ける方が多く、60歳代で町内会活動に参加してくれることが少ない。先日、町内会の役員を募集したが、中学生の子が役員になっても良いと思っている。

中高生議会や投票年齢の引き下げ等も考えると、町内会の意思決定を若い世代に徐々に任していくことも良いかもしれない。

〇部会長（福安徳晃）

町内会の持続可能性について真剣に検討していく時期に来ているかもしれない。町内会のメリットなども知られていない。

〇特別委員（畑野真人）

構成員の高齢化は町内会だけでなく、団体にも同じことが言える。

○部会長（福安徳晃）

団体の持続可能性には、マネタイズの観点も重要だ。

次回の会議に向けて整理をすると、

・リーダーの話を実際に聞いてみる

・リーダーが集える場づくり

・町政参画への仕組みづくり

・世論を形成するメディア

など、さまざま意見が出たと思うことから、事務局で一度整理して取り組んでほしい。

○委員（冨樫俊夫）

行政としてどこまで関われるのだろうか、という範囲の線引きがすごく難しいと思う。

(2)　その他

・議事録を全文筆記ではなく、要点筆記で作成することを確認。

・次回開催スケジュールを確認。

以　上